

2021年3月期
通期決算説明資料

2021年6月10日

【証券コード:9959】

ASEED



アシードホールディングス株式会社
代表取締役社長 河本 大輔

新型コロナウイルス感染拡大の状況を踏まえ、皆様および当社関係者の健康と安全を第一に考慮し、2021年3月期決算資料、説明動画の掲載で対応させていただくことにいたしました。今後もIR活動の充実に努めてまいりますので、何卒ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

新型コロナウイルス感染拡大に対する取り組みについて

当社は、政府および地方自治体の指導のもと『取引先および従業員の皆様の生命、健康、安全』を最優先し、感染リスクの低減する策を実行しつつ、『農林水産省の食品産業事業者への事業継続に関する基本的なガイドライン』に基づき、飲料の安定的な供給と重要な社会インフラである自動販売機の運営継続を維持してまいります。

本日の内容

I. 前期決算概況と今期通期見込

II. 成長戦略

売上高・営業利益・経常利益・当期純利益の減少の主な要因は、新型コロナウイルスの感染拡大による自販機運営リテイル事業のマイナスによるものです。

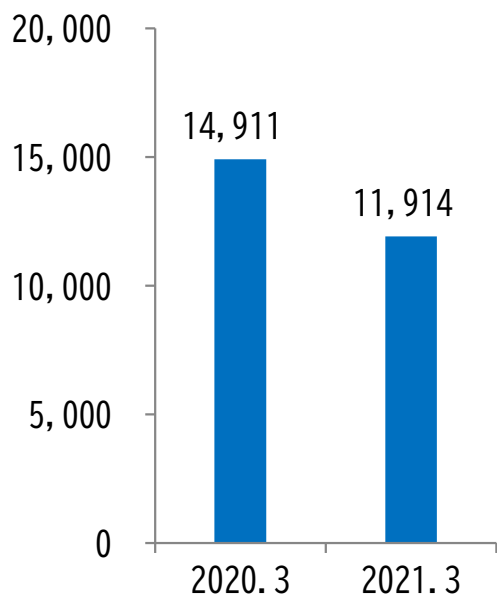
	2020年3月期	2021年3月期	増減額／率
売上高	25,496百万円	23,931百万円	△1,565百万円 / △6.1%
営業利益	558百万円	429百万円	△129百万円 / △23.1%
経常利益	656百万円	640百万円	△16百万円 / △2.4% ※雇用調整助成金157百万円
親会社株主に帰属する 当期純利益	353百万円	304百万円	△49百万円 / △13.9% ※減損損失160百万円

●自販機運営リテイル事業

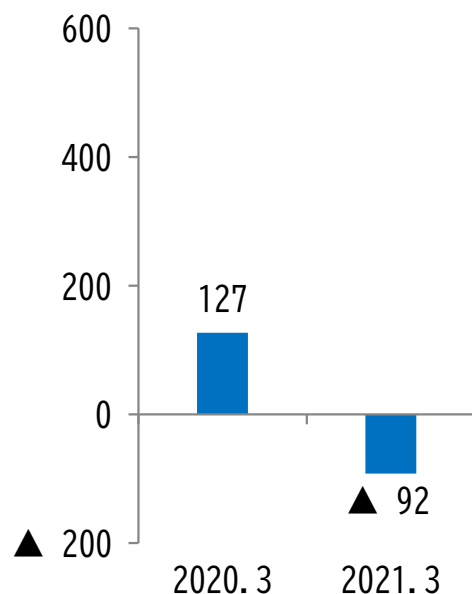
売上高	11,914百万円 (前年同期比 20.1%減少)
営業利益	▲92百万円 (前年同期は127百万円の利益)

- ・新型コロナウイルス感染拡大の影響によるテレワークの定着や集客が遅れる観光地やレジャー施設などのインドア・ロケーションを中心に厳しい環境が続いている。
- ・同業オペレーターとの資本提携や拠点の統廃合を進めコスト構造の改善を進めた。

売上高 (単位：百万円)



営業利益 (単位：百万円)

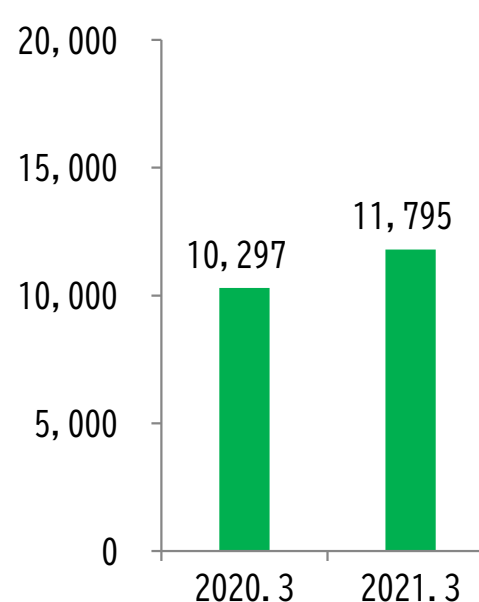


●飲料製造事業

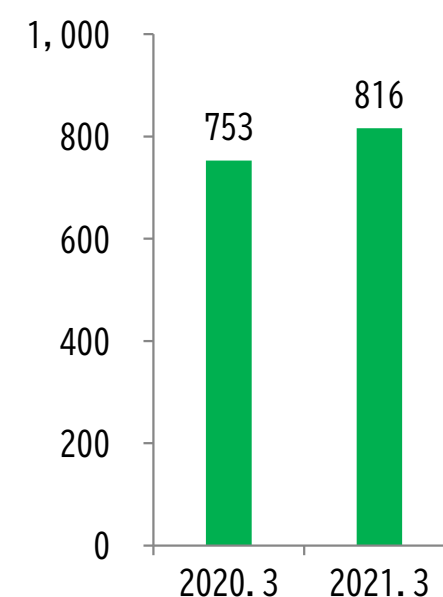
売上高	11,795百万円 (前年同期比14.5%増加)
営業利益	816百万円 (前年同期比8.5%増加)

- ・ODM営業を強化するとともに、生産現場の人材育成に力を注ぎ、安定的かつ効率的な生産体制の構築を進めた。
- ・コロナ禍における巣ごもり需要に伴い、缶チューハイ等のOEM・ODM商品が堅調に推移した。

売上高 (単位：百万円)



営業利益 (単位：百万円)

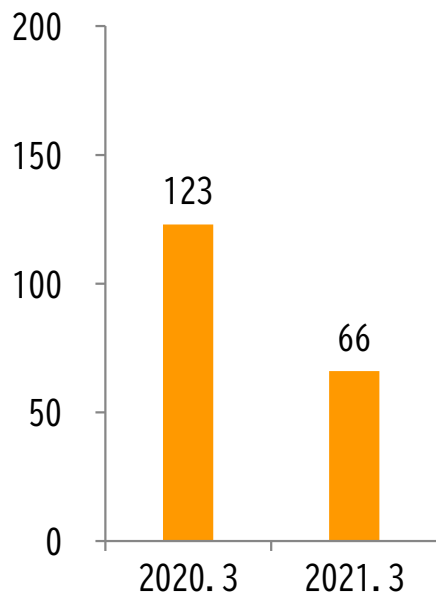


●飲料サービスシステム事業

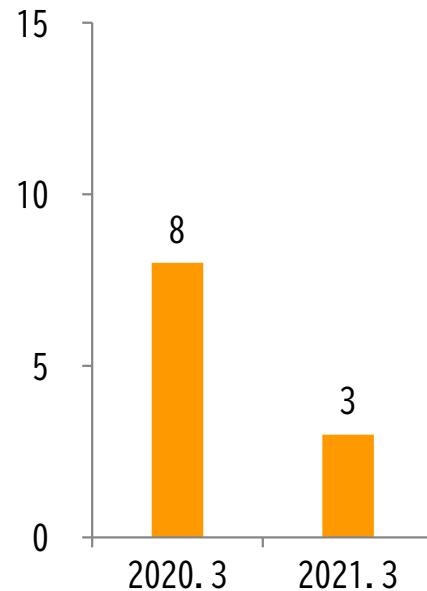
売上高	66百万円 (前年同期比46.0%減少)
営業利益	3百万円 (前年同期比56.5%減少)

・主要販売先である遊技場市場は新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け厳しい事業環境が続きました

売上高（単位：百万円）



営業利益（単位：百万円）

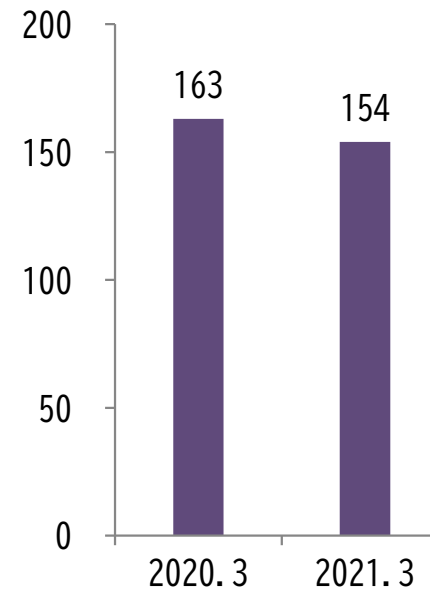


●不動産運用事業

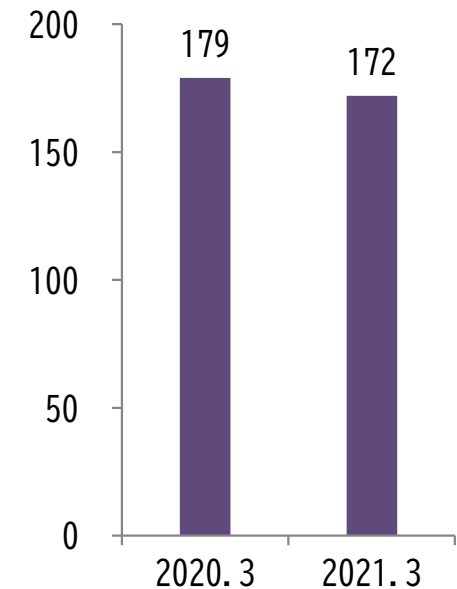
売上高	154百万円 (前年同期比5.7%減少)
営業利益	172百万円 (前年同期比3.9%減少)

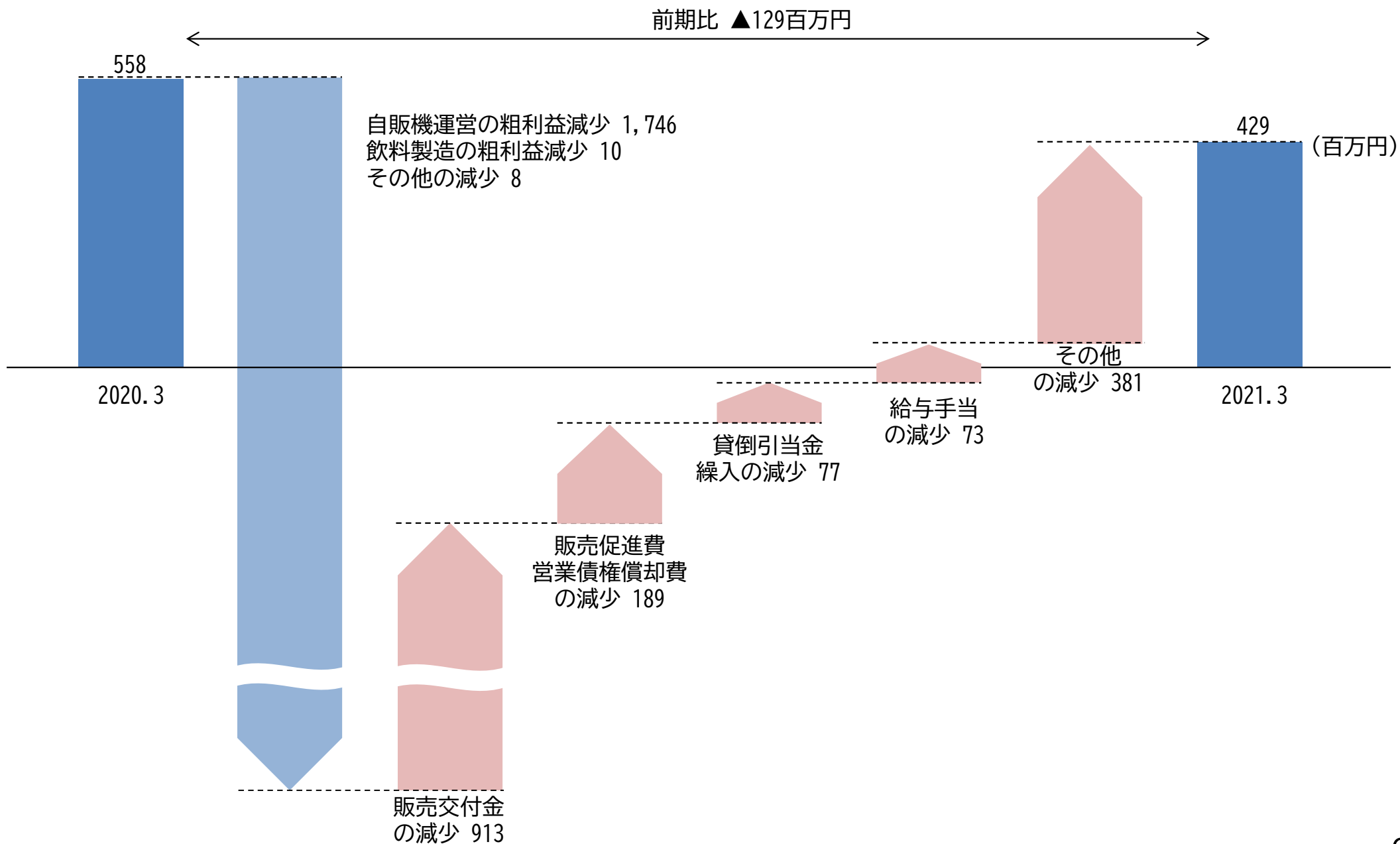
・本年度より「アシードロジスティクスセンター（ALC）」がテナント型物流倉庫として運用を開始しました

売上高（単位：百万円）



営業利益（単位：百万円）

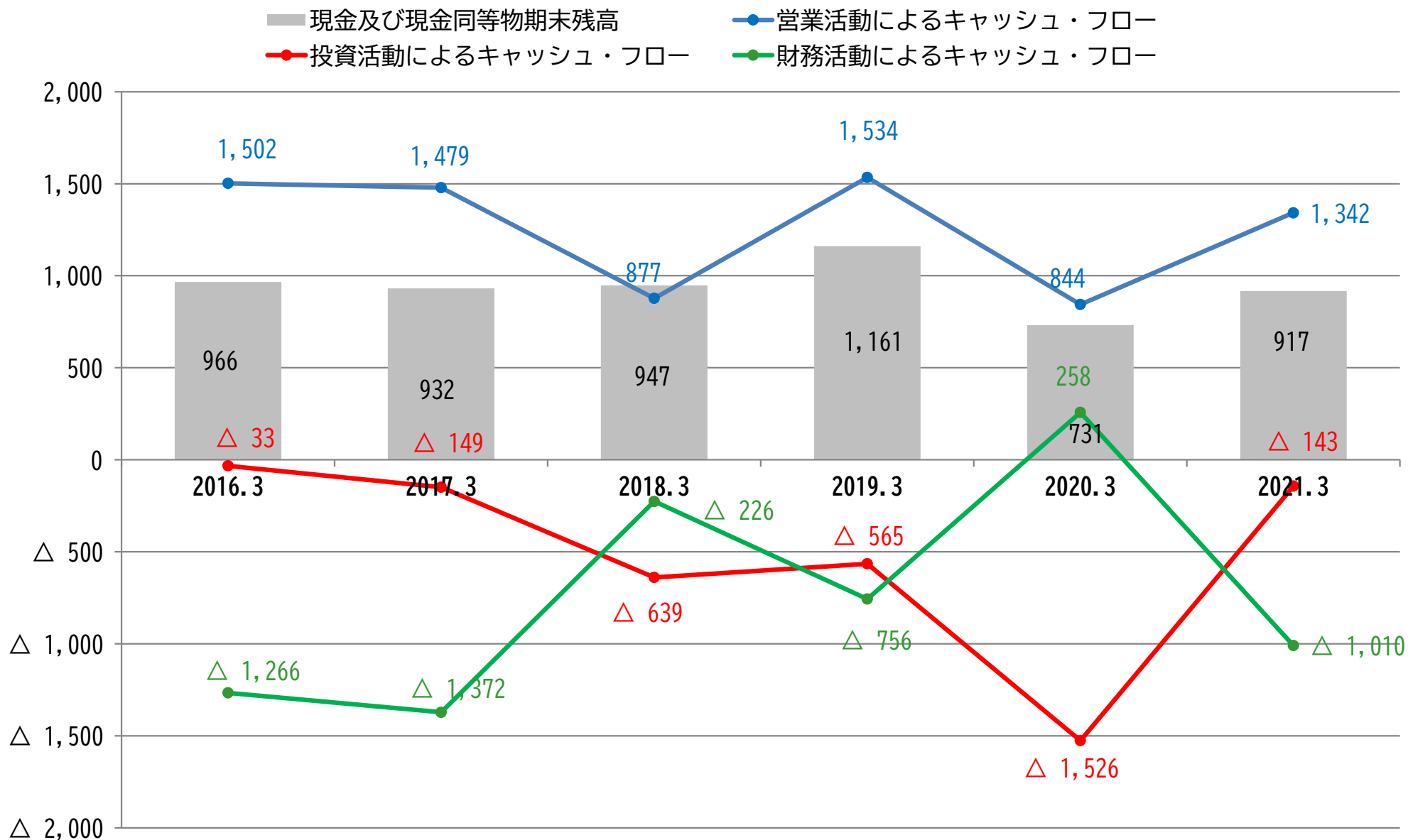




● 連結貸借対照表 要旨

(単位：百万円)

科 目	2020.3	2021.3	増減	科 目	2020.3	2021.3	増減
資産の部				負債の部			
流動資産	5,166	5,262	95	流動負債	6,943	7,257	313
固定資産	9,811	9,337	△474	固定負債	2,878	2,006	△872
有形固定資産	7,963	7,497	△466				
無形固定資産	171	139	△32				
投資その他の資産	1,676	1,700	23				
				負債合計	9,822	9,263	△559
				純資産の部			
				株主資本	5,653	5,784	131
				その他の包括利益累計額	△497	△448	49
				新株予約権	0	0	0
				純資産合計	5,156	5,336	180
資産合計	14,978	14,599	△378	負債純資産合計	14,978	14,599	△378



新型コロナウイルス感染拡大による経済活動の停滞や、外出自粛による消費の低迷は継続しており、観光・レジャー施設の営業自粛やテレワークによるオフィス内需要減退の影響により自販機での販売数量の低迷は続くものと見込まれ、取引条件の改定やルート効率の改善等コスト構造の改革を継続します。一方、飲料製造は引き続きODM営業の強化と安定的・効率的な生産体制の構築を進めます。

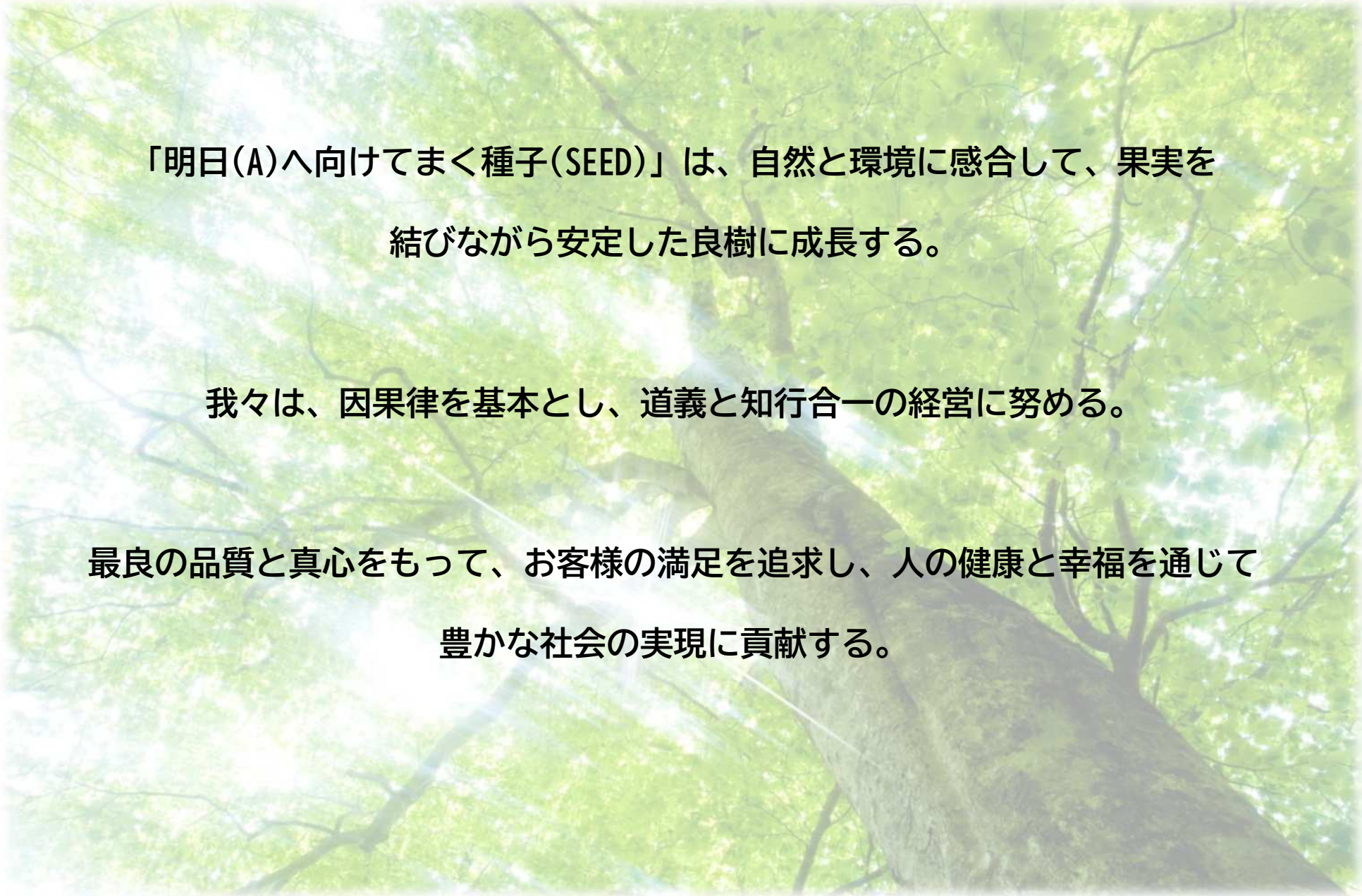
2022年3月期の期首より「収益認識に関する会計基準」の適用により、売上高は減少する見込みとなっております。

	2021年3月期 実績	2022年3月期 業績予想	増減額／率
売 上 高	23,931百万円	18,000百万円	△5,931百万円 / △24.8%
営 業 利 益	429百万円	750百万円	320百万円 / 74.6%
経 常 利 益	640百万円	800百万円	159百万円 / 24.9%
親会社株主に帰属する 当期純利益	304百万円	520百万円	215百万円 / 71.0%

本日の内容

I. 前期決算概況と今期通期見込

II. 成長戦略



「明日(A)へ向けてまく種子(SEED)」は、自然と環境に感合して、果実を
結びながら安定した良樹に成長する。

我々は、因果律を基本とし、道義と知行合一の経営に努める。

最良の品質と真心をもって、お客様の満足を追求し、人の健康と幸福を通じて
豊かな社会の実現に貢献する。

●グループ・メッセージ

「良質の選択 – 人、環境、未来に。」
調和を求めて生き生きと

消費者、生活者起点のマーケティング活動に徹し、長期にわたって消費者の信頼と支持が得られるように、人、環境、未来社会に対して「ためになるかどうか」に照らして、常に「良質の選択」を実行します。企業のレゾン・デートル（存在意義）を高めるため「調和を求めて生き生きと（VIVID INTO HARMONY）」の躍動的なメッセージを広く継続して発信しています。いつもお客様の笑顔のそばにあって、生き生きとした生活シーンを提供する企業グループのイメージ（品質）を高めてまいります。



●グループ・ミッション

バランスある企業価値の最大化

事業価値

時代の要請と顧客ニーズにあった、すぐれた技術、製品及びサービスを提供し、社会の便益を図り、生活者とともに真の豊かさを実現する。

人間価値

人間尊重と人材育成を基本とし、社員の福祉向上と能力開発に努力し、働く個人に自己実現の場を提供する。

社会価値

自然、人類や社会の持続的・調和的な発展に貢献するため、市民社会のよき一員として積極的にその役割を果たす。

資本価値

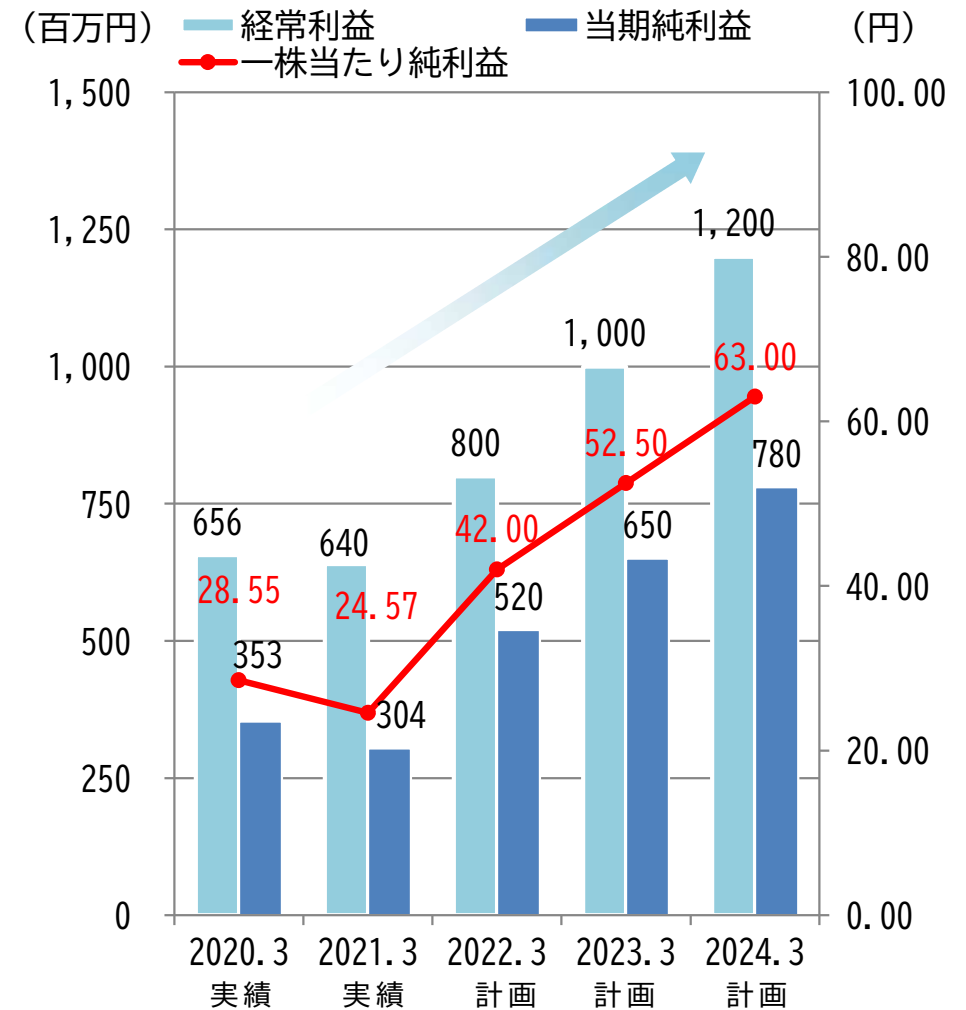
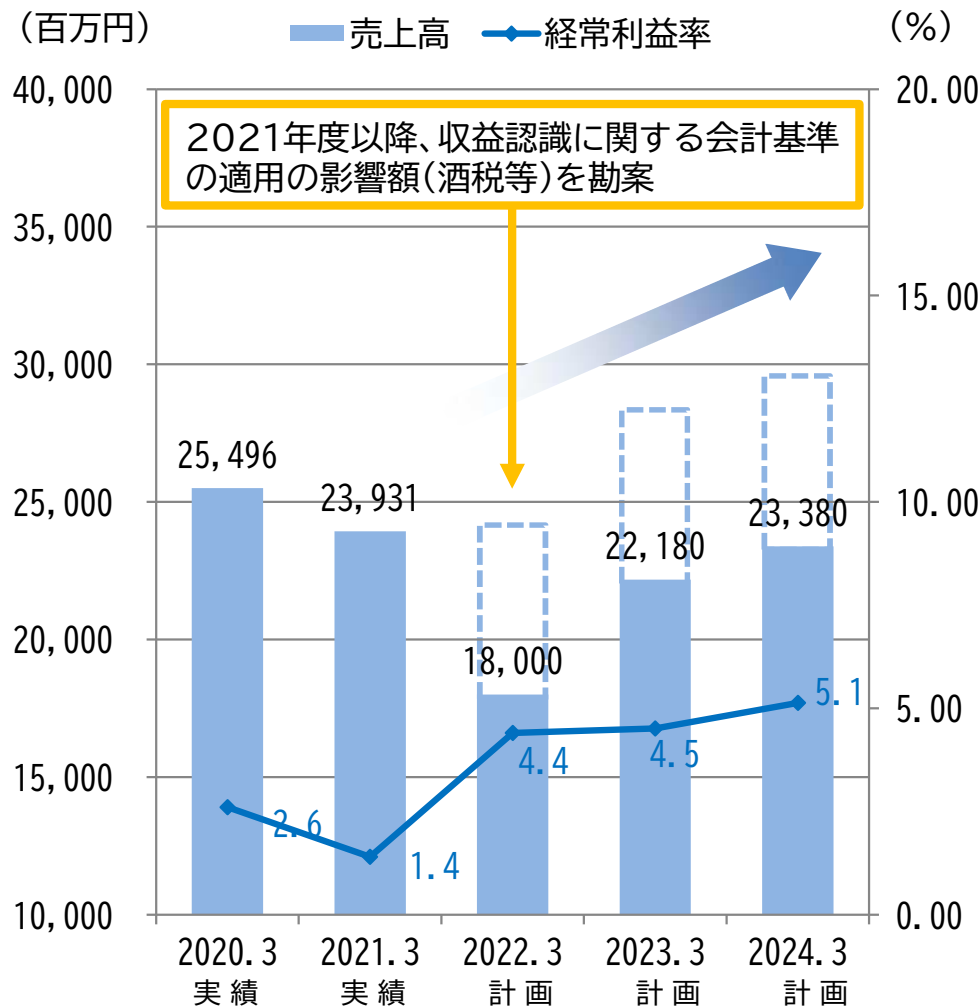
組織の総力を結集して行動し、明日の事業活動（収穫）のための利益（種子）を確保し、企業存続と変革に要する未来費用として必要な付加価値の増大に努力する。

売上高 233億円

経常利益 12億円

経常利益率 5.1%

当期純利益 7.8億円



財務健全性

事業投資が可能な
財務基盤



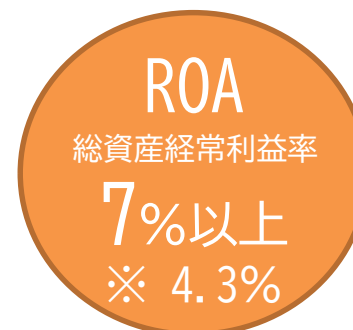
資本効率

良き投資の対象と
なる資本効率



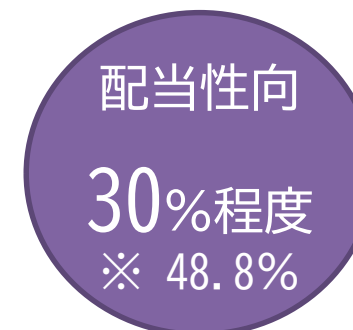
資産効率

同業でトップクラスの
資産効率



株主還元

安定性、継続性を
考慮した株主還元



※2021年3月期実績

● 配当政策

- ① 今期は1株当たり年12円配当を予想
(配当利回り 2.4% 株価500円の場合)
- ② 内部留保はM&A、海外投資、飲料設備等に優先的に充当
- ③ 配当性向30%程度を基準に中長期的な増配基調を目指す

	2019.3	2020.3	2021.3	2022.3予想
1株当たり 配当金	10円	12円	12円	12円
配当性向	24.7%	42.0%	48.8%	28.6%

● 株主優待



100株以上保有の株主様に
クオカードを贈呈

- 100株以上： 500円相当クオカード
- 500株以上： 1,000円相当クオカード
- 1,000株以上： 2,000円相当クオカード
- 2,000株以上： 3,000円相当クオカード

1. ブランド創造企業への挑戦

- 国内外での自社ブランドの開発・販売強化

2. 自販機運営リテイル・飲料製造の既存事業の構造改革

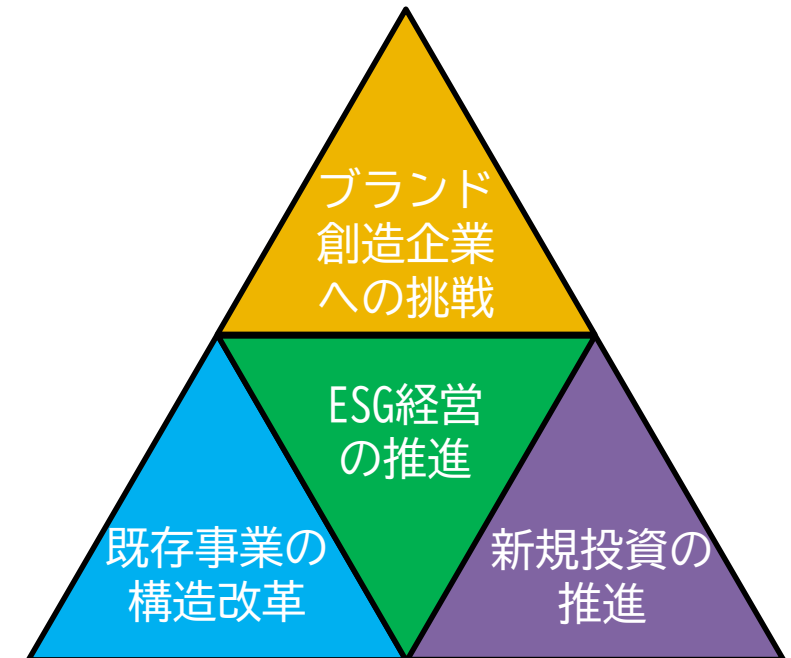
- M&Aの推進
- 自販機を「機能性・ウェルネス商品」に転換
- 飲料製造の同業者ネットワークの推進

3. 新規事業創出やシナジー創出のための新規投資の推進

- 自販機運営リテイルや飲料製造に次ぐ第3の柱づくり

4. ESG経営の推進

- 環境・社会・ガバナンスに対する活動をグループ全体で推進



●ASEED フナマチ珈琲発売（4月）

港町のカフェのように「ゆったりとしたリラックスタイム」をお届けする
コーヒーシリーズ

従来展開していたexコーヒーをリニューアルしました。見た目の訴求力に
ポイントを置き、男女を問わず手に取りやすいデザインに仕上げました。

微糖：厳選高級豆100%使用 すっきりとしたキレが楽しめるよう仕上げました
カフェオレ：ふんわりとミルクを感じる味わいが楽しめます
ブラック：すっきりとしたほろ苦い味わいの正統派



●ASEED アイスティー発売（4月）

ダーズリンのフレッシュな香りと、ニルギリのさわやかな香り、ニュートラルな香味の
インドネシア、くせのない渋みのマラウイの茶葉を丁寧に抽出して仕上げました。

低カロリーで甘さ控えめ、すっきりとした味わいです。
食事やお菓子のお供に合うアイスティーとなっています。



●ASEED ASTERチューハイ

「アシード アスター」シリーズのレモン味を「瀬戸内産のレモン混濁果汁」を使用した商品にリニューアルします。
(6月28日発売予定)

手搾り果実のような、素材ありのままの自然な味わいと上質な香りで、プレミアムなひとときをお届けします。
広島ローカルTVにて、CMの放映などプロモーションに力を入れ、今後も販路を拡大し、商品の認知度向上に努めて参ります。

厳選した産地で育てられた特産果実を使用し、旬のおいしさを逃がさないよう素早く丁寧に搾汁したストレート混濁果汁で作った缶チューハイです。
手搾り果実のような、素材ありのままの自然な味わいと上質な香りで、プレミアムなひとときをお届けします。



ASEED ASTER 紹介・販売サイト
<https://aseed-aster.com/>

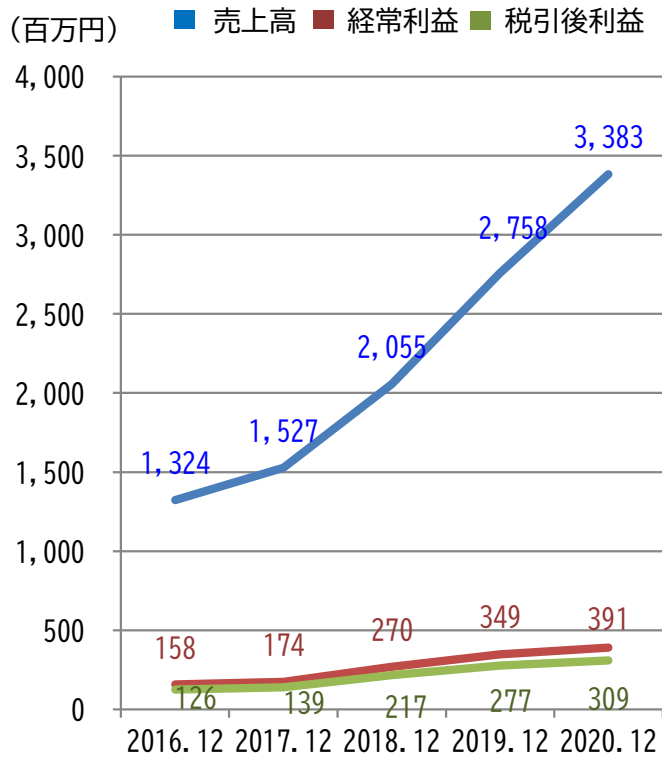
●新商品

年内に健康ウェルネス商品5種類と海外向け商品を新発売する予定です。

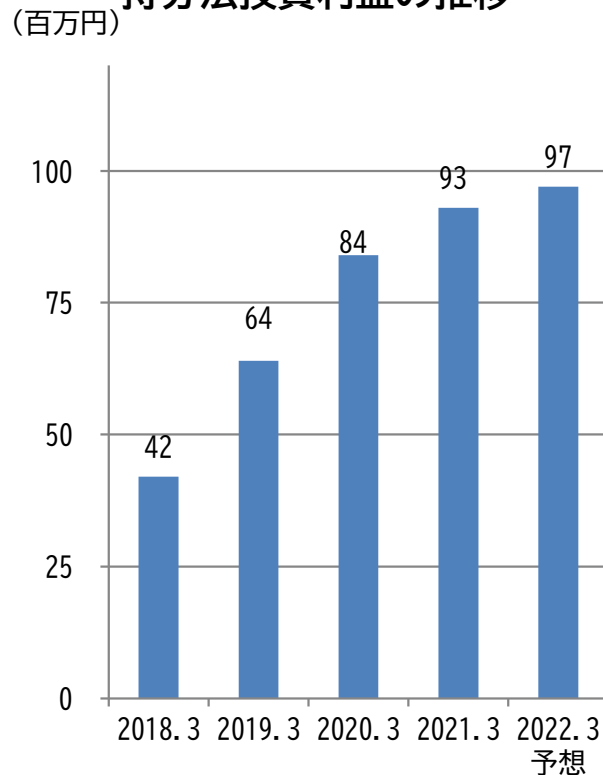
●ベトナム

HaLong Beer And Beverage Joint Stock Company に株式投資（出資比率は31.3%）
 飲料製造のノウハウと、ハロンビールの販売チャネルを相互利用し、ベトナム国内はもとよりASEAN諸国で
 ビール・酒類及び清涼飲料市場を開拓

ハロンビールの業績推移



ハロンビールの持分法投資利益の推移



●タイ

新型コロナウイルスの感染症拡大もあり、前期にベトナムの駐在員事務所に機能集約

	過去	新型コロナ前	新型コロナ後
自販機市場動向	<ul style="list-style-type: none"> ・飲料販売の最大の販路(40%) ・設置先増加による売上拡大 ・定価販売が基本 	<ul style="list-style-type: none"> ・手売市場に逆転される(25%) ・コンビニとの競合、缶コーヒーの低下 ・メーカーの高止まり ・労働環境悪化の是正 	<ul style="list-style-type: none"> ・CSRの観点から、経済合理性のない自販機は撤去の方向 ・メーカーの適正化 ・無人店舗である自販機へのニーズは高まる ・食品・物販など飲料以外の拡大
飲料メーカー系列 オペレーター	<ul style="list-style-type: none"> ・売場として設置台数拡大を推進 ・飲料メーカーによる独立系オペレーターの買収(シェア拡大) 	<ul style="list-style-type: none"> ・飲料メーカー同士の自販機での相互販売 ・直営の一部エリアを独立系へ委託 	<ul style="list-style-type: none"> ・直営のオペレーター事業の見直し ・地域の独立系オペレーターとの連携 ・飲料メーカー同士の自販機事業再編
独立系 オペレーター	<ul style="list-style-type: none"> ・飲料メーカーの代理店として拡大 ・事業者数:全国500社以上 ・飲料メーカー無償貸与機でP/Mを無視した設置競争 	<ul style="list-style-type: none"> ・零細オペレーターの限界 ・人手不足による継続困難 ・創業者世代の事業継承が課題 ・事業者数:約125社 	<ul style="list-style-type: none"> ・オペレーター同士のアライアンスが加速 ・中堅以上の事業者数:全国30~50社に集約 ・飲料メーカー系列オペレーターとの提携
当社のスタンス	<ul style="list-style-type: none"> ・M&Aによってオペレーションの効率を上げ、収益性を改革 ・独立系NO1オペレーターを目指し、飲料メーカーとのWIN・WINの関係を構築 ・スマートストア、無人店舗など次世代の自販機モデルに挑戦 		

●これまでのM&A実績(自販機運営は100台以上のみ)

買収年月	地域	自販機台数	買収形態	現在
1999年2月	群馬	11,816	株式取得	グループ会社
10月	福岡	639	株式取得	合併
2000年2月	東京	896	株式取得	合併
11月	広島	—	株式取得	グループ会社
2002年3月	京都	250	営業権譲受	
7月	宮城	1,993	株式取得	合併
2003年10月	愛知	1,700	営業権譲受	
2004年4月	青森	420	株式取得	合併
2005年9月	石川	750	株式取得	合併
2008年11月	青森	289	営業権譲受	
2009年7月	広島	240	株式取得	合併
2010年1月	青森	107	営業権譲受	
6月	東京	389	営業権譲受	
7月	青森	376	営業権譲受	
8月	大阪	459	営業権譲受	
2011年4月	広島	383	株式交換	グループ会社
2012年6月	静岡	204	株式取得	合併
2018年12月	大分	135	営業権譲受	
2019年3月	和歌山	203	営業権譲受	
2020年10月	福島	270	株式取得	グループ孫会社
2021年6月	茨城	493	株式取得	グループ孫会社

株式会社いいじまの買収について

●会社概要

所在地：茨城県つくば市古来130-1

代表者：飯島 功光

事業内容：自販機運営事業、売店事業、菓子卸事業

先 数：自販機493台、売店運営10先

●目的

- ・自販機運営事業を北関東ペプシコーラ販売(株)に移管し、効率の良いオペレーションが可能となる。
- ・アシードブランド商品の販路拡大
- ・売店事業は無人店舗化を指向し、グループの将来に向けた新しい収益事業づくりを進める。

	2021年3月期 見込	2023年3月期 予想
売上高	501百万円	600百万円
営業利益	△29百万円	21百万円
経常利益	△18百万円	19百万円



持続可能な開発目標（SDGs）とは、「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2016年から2030年までの国際目標です。持続可能な世界を実現するための17の目標から構成されています。



当社グループでは、次のSDGs目標への取り組みを行っております。

●省エネ自販機の設置推進



・複数メーカーの自販機が並べて設置されている現状を見直し、複数メーカーの商品を取り扱う当社自販機1台に集約することで、消費電力の削減や景観に配慮する取り組みを進めています。



・最新式のハイブリッドヒートポンプ式自販機を採用し、消費電力の大幅削減を実現しています。



●飲料容器（缶・ペットボトル）のリサイクル



回収した缶・ペットボトルは、専門業者に依頼しリサイクルを進める取り組みを行っています。

●ふくやまアートサロンの運営

●地域スポーツへの支援



・地元在住の多くの美術愛好家・コレクター及び作者からご好意により、寄託を受けた個人所蔵作品を中心に美術品を展示・公開しています。
 ・地元スポーツ団体や広島東洋カープの支援を行っています。

●茶殻を肥料の原料として有効活用



緑茶などの飲料を製造する過程で大量に発生する茶殻を、委託先企業で肥料の原料として有効活用ジャガイモなどの生産に利用されています。

●ヘルスケア商品の開発



高齢者や嚥下（飲み込み）困難者に対応した、低カロリーで美味しい水分補給用飲料などのヘルスケア商品を積極的に開発しています。



●太陽光発電の実施



アシード株式会社 本社/福山支店に太陽光パネルを設置し、自販機100台相当の電力を発電しています。



●ガバナンスの強化

(取締役会のコーポレートガバナンスに関する最近の取組み)

2021年1月

- ・取締役会の任意の諮問機関として、指名報酬委員会を設置
- ・社外取締役が指名報酬委員会の委員長に就任

2021年2月

- ・取締役の選任に関する方針の決定
- ・取締役の報酬決定に関する方針の決定

2021年5月

- ・取締役会実効性評価を実施
- ・政策保有株式の保有の適否検討

2021年6月予定

- ・譲渡制限付株式報酬制度 (RS)を導入
- ・取締役8名のうち独立社外取締役3名の体制を継続

本資料・IRに関するお問い合わせ先

アシードホールディングス株式会社

経営企画グループ 担当：川崎、右佐林、田中

電話 : 084-923-5552

E-mail : kikaku@aseed-hd.co.jp

URL : <https://www.aseed-hd.co.jp>

【本資料の取扱上のご注意】

本資料に記載されている、当社又は当社グループに関連する業績予想・計画・経営戦略・方針などは、将来の見通しに関する記述であり、これらは、現在入手可能な情報にもとづく経営者の判断などを基礎としています。これらの将来の見通しに関する記述は、様々なリスクや不確定要因の影響を受けるため、現実の結果が想定から著しく乖離する可能性がある事をご承知おきください。

また、当資料はあくまで当社を理解していただくためのものであり、必ずしも投資をお勧めするものではありません。さらに将来の予測のみならず、過去の部分も含めて見直し等により予告なしに変更することがありますのでご注意ください。